

標準化人材育成セミナー(テストケース)の成果と提言

2017年3月3日

一般財団法人 日本ITU協会

国際標準化の 戦略的ビジネス活用セミナー ～グローバルビジネス展開に向けて～

主催：総務省

実施：一般財団法人日本ITU協会



人材育成セミナー開催の背景と位置づけ

◆ 第5期科学技術基本計画（H28.1閣議決定）

『世界に先駆ける新たな価値やサービスを創出する「超スマート社会」の実現
(Society 5.0)に向けた取組みの強化・推進』

- ◆ 我が国の情報通信分野において、近年、従来型事業戦略からの転換を意識し、新たなビジネス展開を目指す取組みが求められる中、個々の企業単独の取組みに留まることなく、産学官が一致協力して時代をリードする人材育成が必須条件
- ◆ 総務省委託に基づき、企業の枠を超えた人材育成の在り方を調査することを目的として実施
- ◆ 本セミナー終了後においても、企業の枠を超えた人材育成セミナーとして継続的に実施し、我が国の情報通信業界全体のグローバル市場におけるプレゼンス向上に繋げる取組みの第一歩
- ◆ 産業界等において豊富な経験を持つプログラム策定委員の協力を得て、集積した知見を広く伝承していこうとの共通認識に基づくプログラムを策定

【人材育成セミナー・プログラム策定委員】

チーフファシリテーター

- ◆ 前田 洋一 氏（TTC）

ファシリテーター

- ◆ 伊藤 雅樹 氏（日立製作所）
- ◆ 大塚 功 氏（三菱電機）
- ◆ 櫻井 義人 氏（日立製作所）
- ◆ 芹沢 昌宏 氏（NEC）
- ◆ 田中 茂 氏（沖電気工業）
- ◆ 長谷川一知 氏（富士通）
- ◆ 深堀 道子 氏（国立研究開発法人情報通信研究機構）
- ◆ 横谷 哲也 氏（金沢工業大学）

人材育成セミナー・プログラム策定における特長

- ◆ セミナ実施に際しての一環したテーマ設定
 - 『グローバルかつオープンイノベーションシステムの構築と新たなビジネスの展開』
 - 『この目的達成を支えるツールとしての標準化・知的財産権戦略の在り方』
 - 【発想転換とその気付き】
 - 国際標準化・知財の戦略的活用に向けた発想転換に関する視点と「気付き」
- ◆ 4日間セミナーの各日テーマ設定と優れた講師布陣による系統だった知見の共有、伝承
 - ① 標準化戦略のグローバルビジネスへの活用(心構え)
 - ② オープンイノベーションにおける知的財産権と標準化戦略
 - ③ 国際交渉課題
 - ④ 経営視点からの標準化戦略
- ◆ 受講者間の交流や情報・発想の共有を図る演習(4日間のグループワーク)実施
 - ① 「超高齢化社会対応」、「近未来型高度交通系」、「地方創生」、「防災・減災」の4つの社会課題解決に向けたソリューションをテーマに、ビジネスモデルを検討
 - ② そのビジネスモデルをベースに、目的達成のための標準化・知的財産に関するオープン・クローズド戦略のあり方を検討
 - ③ 最終段階として、講師(役員クラス)に対するプレゼンテーションを実施、経営視点からのアドバイスを聴取
- ◆ 国際交渉課題は、主要な国際標準化機関・団体における豊富な経験を持つパネリストによるディスカッションを通じて、様々な角度からの知見を共有

人材育成セミナー・プログラムの内容

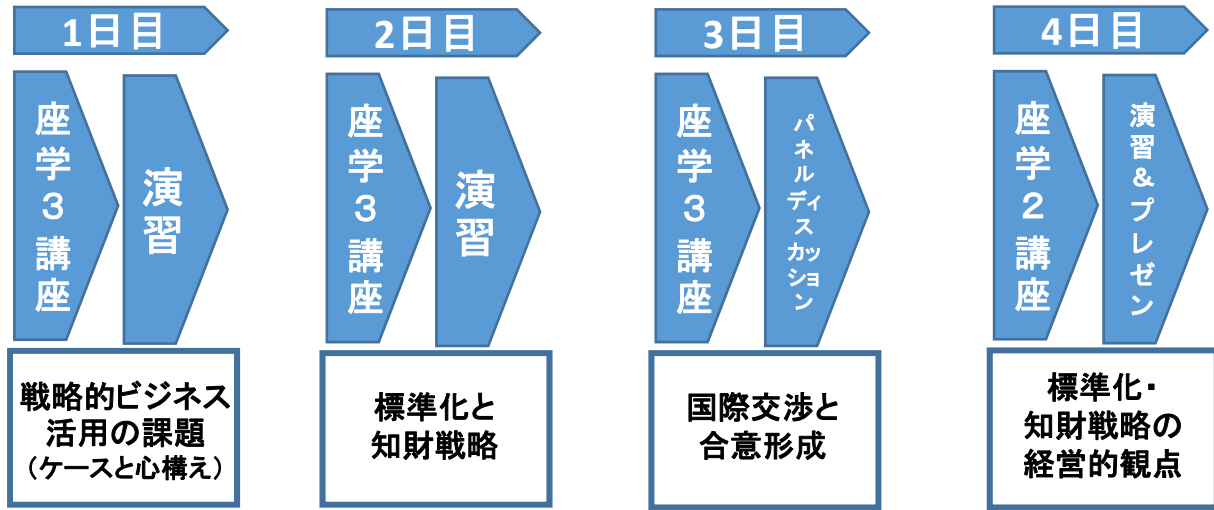
日程	テーマ	講師	各単元の狙い			
第1日 標準化戦略のグローバルビジネスへの活用						
1月20日(金)	13:00 ～ 13:10	10分	オリエンテーション	TTC	前田 洋一	セミナー概要について
	13:10 ～ 13:40	30分	IoT/ビッグデータ/AI時代における政策課題と標準化人材育成	総務省	中西 悦子	標準化にからむ我が国の政策動向と課題、求められる人材像を理解する
	13:40 ～ 14:40	60分	ビジネスに活かす国際標準化活動の心構え	桜美林大学	原田 節雄	標準化に取り組むべき人材の必要条件並びに留意点等を理解する
	14:55 ～ 15:55	60分	グローバルビジネスへの国際標準化の活用	日立製作所	櫻井 義人	ビジネス展開を視野に入れた研究開発や標準化立案、ビジネス立案
	16:00 ～ 17:30	90分	演習・グループワーク	有識者ファシリテーターによる コーチング		事前課題の共有、グループディスカッション
	終了後		意見交換会			
第2日 オープンイノベーションにおける知的財産権と標準化戦略						
1月26日(木)	13:00 ～ 14:00	60分	イノベーションのための標準活用戦略 (not only 標準化) -スマートマニュファクチャリングの動きから-	アズビル	岡本 秀樹	各国の動向や国際的な枠組み、我が国のポジション等知見を得る -独米中日の動きを踏まえつつ特に企業として考える方向性-
	14:10 ～ 15:10	60分	ICTソリューションにおける知的財産権(特許権)の考慮	大阪工業大学	平松 幸男	知財と標準化の課題を共有、今後考えられる標準化について考える
	15:20 ～ 17:50	150分	オープン&クローズ戦略 演習とグループディスカッション	沖電気工業	千村 保文	世界に勝つための戦略と、自社が勝つための戦略。協調と競争

日程	テーマ	講師	各単元の狙い			
第3日 標準化戦略のグローバルビジネスへの活用実行のための国際交渉課題						
2月9日(木)	13:00 ～ 14:00	60分	演習・グループワーク	有識者ファシリテーターによる コーチング	第4日目の経営層へのプレゼンテーション 内容についてグループ毎に意識合わせと 作業を行う	
	14:10 ～ 15:10	60分	標準化の変遷と今後の展望	早稲田大学	亀山 渉	標準化の歴史の変遷をもとに今後の展望を学ぶ
	15:10 ～ 15:30	20分	国際会議・ロビーイングの活用方法 ～WTSA-16の事例から～	ITU-T	前田 洋一	ITUにおける合意形成の仕組みと事例から 戦略的なアプローチ方法、ロビーイングの 重要性を学ぶ
	15:30 ～ 16:00	30分	国際会議・ロビーイングの活用方法	IEC	上野 文雄	ITUとは異なる標準化団体での合意形成 の事例から、その違いと戦略的アプローチ 方法を学ぶ
	16:00 ～ 17:30	90分	パネルディスカッション 国際会議における交渉術	モデレータ:	前田 洋一	重要な標準化団体ごとの事例を元に、 個々の特色に関する理解深化と国際交渉 攻略方法を学ぶ
				IEC	上野 文雄	
				Ecma	山下 経	
IEEE				江崎 浩		
ITU	内藤 悠史					
終了後		意見交換会	パネリスト			
第4日 経営視点からの標準化戦略・今後に向けた提言						
2月13日(月)	13:00 ～ 14:00	60分	国際標準化のビジネス活用の今後	三菱電機	堤 和彦	経営的視点からのビジネス活用の今後に ついての见解を聴取する
	14:10 ～ 15:10	60分	国際標準化の役割の変化	富士通	雄川 一彦	ITU CTO会合の議論から、ビジネスへの 戦略を考える
	15:10 ～ 15:40	30分	グループワーク (経営層へのプレゼン準備)	-	-	グループ毎に経営層へのプレゼンテー ション内容についての最終化作業、役割 分担決めを行う
	15:50 ～ 17:20	90分	演習 (経営層への戦略案のプレゼン)	NEC 富士通	広崎 膨太郎 中村 利光	企業経営の視点に立つ国際標準化の ビジネス活用戦略案をまとめ、経営層の 理解とサポートを得られるプレゼンテー ションスキルを養う
	17:20 ～ 17:50	30分	講評・まとめ (プレゼン講評・今後の課題)	有識者ファシリテーターによる コーチング		経営層役・ファシリテーターからの講評を 聴取する

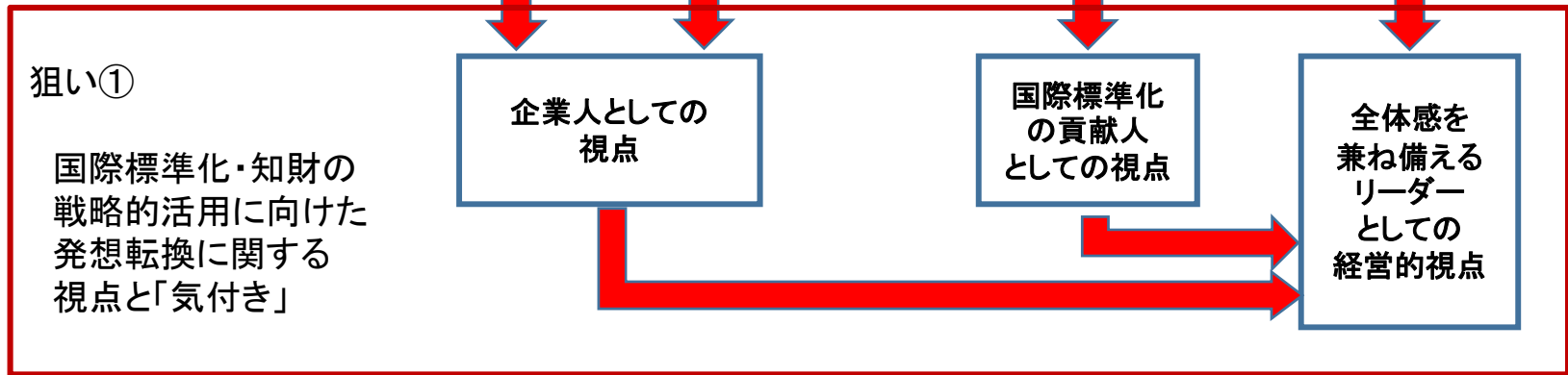
プログラム実施の流れと狙い

【事前課題】

- ・ Society 5.0の主要着目点と社会的課題
- ・ 持続可能な発展目標(SDGs)
- 【参考資料】
- ・ 総務省電波政策2020懇談会報告書
- ・ 第5期科学技術基本計画
- ・ ビジネス最前線から見たICTの展望(桜井義人著:TTC report July2016)
- ・ SDGs達成に向けた日本への処方箋 (POST2015レポート 2016)



3月3日(金)
10:00 ~ 12:00
報告会



狙い② セミナ・演習を通じての一企業の枠を超えた課題共有と人的ネットワーク形成

演習テーマ設定: ① 超高齢化社会対応ソリューション
 ② 近未来型高度交通系ソリューション
 ③ 地方創生(ルーラル系)ソリューション
 ④ 防災・減災ソリューション

セミナー実施の成果 — 受講者等アンケート結果から —

【Q1: 標準化戦略立案に必要な知識やノウハウが得られたか】

- 様々な観点を学ぶことが出来、得られるものが多かった。
- 標準化はビジネス展開のツールとの共通認識の理解が深まった。
- 標準化すべきタイミングに関する講義が大変役立った。

【Q2: 標準化戦略立案に必要なマインドセットのあり方が学べたか】

- ビジネス上の標準化活用方法をしっかり決めてから取り組む必要を認識。
- 標準化戦略立案に対する考え方が受講前後で大きく変化。
- 中長期を見据えて標準化への人材投入の必要性や企業間の連携の必要性を強く認識。

【Q3: セミナ内容をより良くするとしたらどのような点に注力すべきか】

- 午後だけのセミナーでは時間が不足、全日×4日間のセミナーの検討。
- セミナ参加者が継続的にコミュニティ化する仕組み。
- 標準化活動の主体であるビジネス戦略担当の参加増。

【Q4: 次回セミナー開催がある場合に同僚・後輩に参加を勧めるか】

- 講演者の方々が素晴らしく、企画側の努力に驚嘆。
- 階層別(経営マネジメント層、中堅層、若手層)が望ましい。
- 入社5年目までの人材に勧めたい。
- 若手のブレイクスルーのヒントになり得る。



全てのプログラムは一定以上の高評価を受けた。



【演習に関する受講者・ファシリテーターコメント】

- 演習内容は自社の中でも工夫すれば出来るように感じた。チームで「変えない点」「もう少し考えるべき点」といった点に触れることができた。
- グループワークで時間が不足、消化不良感あり。
- 受講生が企業の垣根を越えて討議をしている姿に感銘を受けた。標準化人材育成ではなくビジネスを考えられる企業人を育てたい気持ちが詰まっていた。日本はまだ課題がある。縦割りの壁を打ち破ってほしい。コンセプト作りに必要なデザイン力の強化を期待する。
- 事前に選んだ社会課題に対し標準化を切り口に他社のメンバーと討議したグループワークは大変良い機会になったと思う。
- 4日間を通じてメンバーが真剣に議論している姿が素晴らしい。
- 議論を共にしたメンバーは、本セミナーの卒業生としてこの先どこかで一緒になった時にも必ずや力になり合えると思う。
- 社会課題に対し、事業者課題への落とし込みやオープン/クローズ戦略まで検討する一連の流れを習得できたことは、受講生の今後の力になり得ると思う。

今後に向けた提言

◆ 人材育成プログラムの継続的な実施

グローバルな社会的課題の解決をリードする我が国のリーダーシップの発揮が今こそ必要であり、また、産業界におけるオープンイノベーションを主体とする新規ビジネス領域の拡大によるグローバルビジネスの展開において、標準化・知的財産権をツールとして活用する発想手法の浸透が重要な意味を持つ。他方、こうした人材の育成には中長期的課題として時間をかけて実施すべきものである。

そうした認識のもと、本調査により試行的に実施した人材育成プログラムは受講者等からのコメントに見られるように有意義と認められる内容となっており、また、標準化・知的財産権に関する戦略に関わる各社の人材にとって、一企業の枠を超えた横断的関係の強化に効果をもたらすと考えられる。

従って、今後も継続的に、かつ受講者層を拡大するなど本格的なセミナーの実施を行うべきものとする。

◆ 産・学・官の継続的支援

今回のプログラム策定と実施に費やした稼働は相当なものであり、総務省の指導のもと、産業界、学术界、研究機関からの策定委員と講師陣の全面的な協力に支えられて実現できた。

今後に向けては、今回のプログラムを礎に、さらに演習内容をはじめ研修効果を最大化するためになお一層洗練する努力が必要と認識しており、関係者の継続的な協力が不可欠と考える。他方、受講者を派遣する各企業側における本セミナーに関する理解と協力も必要である。

本格的なセミナーの継続的な実施によるオールジャパンとしての人材育成の環境醸成に関する総務省の継続的な支援をお願いしたい。

本日の報告会

- ◆ 今回実施したセミナーの内容を纏めて御報告。